

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572212678		
法人名	株式会社 松峰園		
事業所名	グループホーム 松峰園		
所在地	秋田県山本郡八峰町峰浜水沢字下カッチキ台41-58		
自己評価作成日	令和3年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、利用者をこれまでの生活歴は関係なく、「グループホームで生活する1人の人」として見ています。その人の持つ生きるたくましさや元々の性格を考え、利用者にとって生活しやすい場所となっているか、暮らしにくさを感じていないか配慮しながら生活を支援しています。  
また、職員に対しては仕事のストレスが虐待につながることはないように、話し合いを行いながら負担軽減に務めています。職員それぞれの得意・不得意を理解し、お互いに補い合いながら仕事をしています。  
今年度の取り組みとしては、亡くなった時に遺影として使うため写真を下さい、と家族から依頼されることがあるので、園で撮っている写真をまとめてデータ化したものを、退所時に渡せるように写真の整

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者及び家族の意向を最優先した取り組みが行われていて、コロナ禍で面会が出来ない状況の中、携帯電話やタブレット等を活用し、日常生活の様子などを家族に伝えたり、YouTube体操や過去の地域の行事をテレビで映したりして楽しんでもらっている。職員研修では、オンライン動画研修を取り入れるなど職員の資質の向上に努力しているほか、安全に効率よく支援ができるよう職員配置にも配慮し、協力しながら支援できる体制が築かれている。看取りに対しても前向きに取り組んでおり、家族の意向を確認しながら主治医と連携を図り行っている。子育て支援など働きやすい職場環境作りにも努めているため、勤続年数の長い職員が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「その人らしさを大切に」暮らしが出来ているか確認しています。利用者にとって生活しやすい場所になっているか確認しながらケアを行っています。	理念をホール等に掲示しているほか、日常の支援の中で、普段の利用者の様子を観察し、理念である「その人らしさを大切に」の生活が送れるよう日々職員間で話し合い支援している。目的を達成させるために日々介護技術等の向上に努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方には、事業所の存在や利用者のことを理解して頂いています。コロナ禍のため、積極的な交流は難しくなっています。	コロナ禍で交流は難しい状況にあるが、地区のごみ拾いや側溝の泥上げに職員が参加している。利用者は重度高齢化により参加していない。地域の祭りなども出来ない状況であるが、過去の祭りの様子をYouTubeを活用し、テレビ視聴してもらうなど工夫した取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通して、地域の方の意見を聞いています。認知症については、運営推進会議の中で伝えることはありますが、地域の方々に伝えることまではできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ヒヤリハット報告と身体的拘束適正化委員会で話し合った内容を報告しています。その内容について意見交換を行い、より良いケアを提供できるようにしています。コロナの感染状況によって、少人数での開催になることもあります。その場合は、話し合いの内容を郵送で伝えています。	コロナ禍で委員の方々が全員参加しての開催が難しいことから、参加者を限定して社会福祉協議会職員と会議をして実施していたが、今月は町内会長、地域包括支援センター、家族代表などの委員の方々に参加して頂き実施する。会議で利用者の状況やヒヤリハット、ホームの運営に関することを報告し意見等を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、コロナワクチン接種で町の担当者と連携しました。疑問や不安な点などを相談しながら、ワクチン接種をスムーズに進めることができました。	町や社会福祉協議会、地域包括等に入所の相談や制度等に関する相談の窓口として、活用している。コロナワクチン接種については、直接町に相談し早期に接種を終えることが出来るなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を設置し、定期的に話し合いと見直しを行っています。玄関の施錠については、開錠する時間を設ける、外へ行きたい利用者の気持ちに応えるため散歩に出かける、等工夫しています。オンライン動画の研修を利用し、身体拘束について学んでいます。	2カ月に1回身体的拘束適正化委員会を開催し話し合いが行われ、少しでも良いケアを目指して取り組んでいる。外出願望の強い利用者の思いに寄り添い、一緒に散歩する様子を確認できた。全員で受ける研修は難しいことから、オンライン動画を活用し研修を行う等、工夫した取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディアバスアカデミー(オンライン動画研修)を利用して、事業所内で研修を行っています。日々のケアについても話し合い、振り返りができるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用中の方がいるので、職員は実際のやり取りを見て学ぶ機会があります。個々の必要性については、社会福祉協議会の担当者として話し合いながら確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安が残ったままの入所にならないように配慮しています。 在宅時の担当ケアマネジャーが家族との間に入り、最終的な確認をしてから入所することが多くなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限のため、家族と直接話す機会は減りましたが、利用者の普段の生活の様子を写真に撮って送ったり、メールや電話でもやり取りをしています。 今年度は、コロナについてアンケートを実施したいと考えています。現在準備中です。	コロナ禍で面会の対応が難しい中、家族から面会の希望があった時には、ワクチンの接種状況を確認し感染予防の対策を講じたうえで、短い時間でも面会が出来るよう家族の意向に沿った対応をしている。また、生活の様子を写真やメールでお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年行われる人事考課の中で、「働きやすい職場にするための意見」を伝えることができます。日々の職員からの意見は、管理者から代表者へ伝えてもらいます。	いつでも意見を話せる環境にあり、職員からの意見が事故防止のための設備改善に結びついている。また、働きやすい職場作りにも取り組んでいて、勤務の調整や子育て支援に力を入れている。お互いに協力し合うことで、働きやすい職場環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年行われている人事考課で評価を行っています。職員の就業環境に対する考え方について、代表者・管理者が同じ目線で理解できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン動画を利用して、職員それぞれが空いている時間を利用してながら研修を行っています。メディアバスアカデミーは様々な項目があるので、自分に合った研修を選ぶことができます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八峰町の介護支援専門員連絡協議会が3ヶ月に1回行われ、参加しています。各事業所の状況について情報交換、研修などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍のため、入所前に本人に会うことは難しくなっていますが、担当のケアマネジャーを通して情報を得ています。なるべく短時間でも会えるように、調整してもらっています。本人の状況を少しでも把握し、入所後の生活に馴染めるように配慮します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は不安がないように対応しています。入所後も家族と連絡を取り、状況を報告します。写真を送って園での様子を伝えています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者はこれまでの人生を生き抜いてきた強さを持っていることを忘れず、出来ることは最大限に活かして生活できるように配慮しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にいる家族や、面会に来られない家族には、メールや手紙・写真を送って日々の様子を伝えています。毎週、電話をかけてくれる家族もいます。コロナ禍のため、以前よりやり取りが増えています。困った時は家族に相談し、意見を聞くこともあります。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限が続く中、オンライン面会を実現するためタブレット端末を購入しました。使い方に慣れず、試行錯誤しています。家族の中でできる方には、動画を送ってみました。どの家族にも簡単に利用者の生活状況の写真を送信できるようにしたいと考えています。	コロナ禍で面会が制限されている中、メールを活用し生活の様子を伝えたり、タブレットを活用して写真を送ったり関係が途切れることがないよう継続した支援を行っている。また、面会についても、コロナワクチンの接種状況を確認した上で短時間の面会や窓越しの面会などを行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や性格を把握し、職員間で共有しています。お互いに嫌な思いをすることのないよう、配慮しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても、必要に応じて相談を受けています。退所後も、気軽に話ができる関係のままであらうと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を表現できる方が少ないので、利用者の様子を見て判断しています。イライラしている時は体調不良を疑う等、急激な変化があった時は何か原因があるので、職員間で話し合い、利用者の状況の把握に努めています。	日常生活の中での行動に変化が見られた時には、職員間で情報を共有し、健康チェックをしたり、外出願望が強い利用者には、一緒に外出したりするなど、その人の思いや意向に沿った支援ができるよう努力している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から詳しく聞きます。在宅時の担当ケアマネジャーとも連絡を取り、園での生活に馴染めるようにしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録は1日1枚になっているので、1日の様子が把握しやすくなっています。1ヶ月表もあり、心身の状態の変化を確認しやすくしています。特に熱や脈拍を注意して見るようにしています。ホーム日誌でも1日の全体の流れが分かりやすくなるようにしています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があれば、その都度カンファレンスを行い、結果をケアプランに反映しています。1日ごとの記録用紙にもケアの内容を記載し、ケアプランに添ったケアを行えているか確認できるようにしています。 家族には、変化があったら手紙や電話、メールで伝えています。	利用者の行動を職員間で共有するため、申し送り等でカンファレンスを行い、個々の変化について意見を出し合い介護介護計画に活かされている。また、一日の生活の様子が分かる記録用紙を作り、実際に介護計画に沿った支援が行われているかを確認している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で必要なことは、記録しています。変わったことがあれば、職員間で話し合いを行い、情報を共有しています。話し合いの内容は、記録して介護計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが制限されているため、感染状況を考慮しながら最低限の関わりを持てるようにしました。ワクチン接種が終わっている家族との外出、感染拡大地域との関わりがない家族との面会を許可するなどです。 地域とのつながりを感じながら生活を続けてもらうためにはどうしたら良いか考えながら対応しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の希望に応じています。かかりつけ医以外の受診が必要な時は、本人・家族と相談し、適切な医療を受けられるようにしています。薬局とも連絡を取りやすく、分からないことは相談しています。受診時には、診察や検査の結果の報告も行っています。誤薬を防ぐため、一包化や印字の指定など細かい要望にも対応してもらっています。	かかりつけ医については、家族や本人の意向に沿った対応をしているほか、専門医の受診が必要な時には、本人、家族に相談した上で受診している。通院の付き添いはホームで対応しているが、付き添ってくれる家族もいる。薬局については、薬の副作用等いつでも相談出来る関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の状態に変化があれば、看護職員に報告し、確認してもらいます。週に一度、訪問看護師が来ているので、利用者の報告をしています。対応の仕方についても相談しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、面会は出来ないため病院の地域医療連携室を通して経過を聞いています。退院時は、カンファレンスを行い、状態をきちんと把握し、退院後の生活に不安がないようにします。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを視野に入れた介護が必要だと判断した場合は、早い段階で家族と話し合いを行います。職員間でも話し合いを行い、看取りへ向けた援助について確認します。慣れていない職員が不安にならないよう対応の仕方についてはその都度説明します。看取りだから特別な対応をするわけではなく、日常生活を続けながら、自然な形で最期を迎えられるよう援助します。	日々の変化などを職員間で情報を共有し、看取りの対応について話し合いを行い確認している。経験が浅い職員には対応の仕方について、その都度説明を行い、不安の解消に努めている。看取りを行う際、家族からの意向を確認し今後の対応について説明しているほか、主治医から家族に説明を行い同意をもらっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年も、コロナの影響で実践訓練が出来ませんでした。急変時の対応については、研修動画を見て確認しています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	荒天の予報が出ている時は、外の状況を見て早めの判断をするよう職員に話しています。テレビのデータ放送やインターネットの災害情報など、最新の情報を確認しています。火災や地震の避難訓練も定期的に行っています。	火災訓練では、地域の方にも協力してもらい、避難した利用者を外で見守りしてもらう訓練を行っている。同敷地内ある有料老人ホームと合同で年4回実施していて、11月に炊き出し訓練を取り入れた地震を想定した訓練を予定している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応は、その場に家族がいても不快にならない対応であるかを意識しています。自分がされて嫌なことはしない、という当たり前のことを忘れないよう話しています。居室入口には、防災の暖簾を付けて居室が見えにくくなるようにしています。	日常の支援の中で、不快な思いをさせることがないように言葉かけなど常に意識して関わりを持っている。居室の入り口には、暖簾を下げて室内が見えないよう配慮している。入浴の際には、同性で支援が出来るよう勤務状況を見ながら調整して行っている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を上手く表出できない利用者が多いので、本人の性格や普段の生活の様子を踏まえて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活は、それぞれの利用者に合わせています。食事・就寝・起床時間は、自由に行っています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に依頼されて、職員が利用者の服を買いに行く時は、本人に似合うものを選ぶよう工夫しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年は感染対策として、一人一卓のテーブルを準備しました。対面で会話を楽しみながらの食事はできなくなりましたが、個人で食事の内容が違うことがあるので対応しやすくなりました。また、むせ込みの多い利用者や自分のペースで食事がしたい利用者は、周りを気にせず食事が出来ています。食後、ソファーに座って会話を楽しんでいます。	食事の形態はその人に合わせ、食事の場所や時間など決めて支援している。また、コロナ対策として個別のテーブルを準備し、密にならないよう配慮されている。季節感を感じてもらえるよう、炊き込みご飯や新米のきりたんぼ、巻きずしなど手作りで提供している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝の会議で、利用者の体調を確認しています。食事摂取量が少ない方がいれば、栄養補助食品や本人の好みのものを準備して対応します。水分摂取については、おいしく摂取できるように、お茶だけでなく、利用者の好みに合わせたものを準備しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には状態に合わせた物品を用意し、口腔ケアを行っています。毎食後が難しい方には、1日1回は丁寧に口腔ケアを行うことを目標に対応しています。義歯洗浄には、食器用洗剤を使うと良いと教えてもらい、実践しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿・便意がない方でも、利用者の行動を見てトイレ誘導のタイミングを判断しています。夜間、ポータブルトイレを使用している方もいますが、日中は、ほとんどの方がトイレで排泄出来ています。リハビリパンツ、オムツ、尿取りパットも個人に合わせた物を選んでいきます。肌が弱い方には素材にも気を付けています。	出来るだけトイレで排泄できるよう、行動を観察しながらトイレ誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパット等はその人に合った物を選び使用している。夜間については、ポータブルトイレを活用するなど、一人ひとりの状況に合わせた排泄支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しないことの重要性を職員は理解しているので、排便の有無は必ず確認しています。排便時は、プリストルスケールを用いて職員間で情報を共有しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方や苦手な方に合わせながら最低でも3日に1回は入浴できるように調整しています。皮膚疾患がある方は、入浴の間隔を短くして疾患が早く良くなるように対応します。浴室には押しボタンを設置しています。職員が1人で無理をしないよう、その場を離れずに他の職員を呼ぶことができます。2人や3人介助にすることで職員と利用者両方の安全を考えた対応ができています。	入浴前に健康状態の確認を行い、週に2回以上入浴できるよう言葉かけ等を工夫している。浴室には、入浴支援している職員がその場を離れなくて済むよう、押しボタンを設置し何時でも職員が駆け付けられるようにしていることで、安全に入浴出来るよう配慮されている。移動が困難な利用者については、ストレッチャー型の簡易浴槽を使用することで、安全に入浴できている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操などで身体を動かす時間を作るようにしているので、夜は眠っている方が多いです。就寝時の居室の温度や明るさは、個人の好みに合わせています。温湿度計を確認し、快適に休めるようにしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、間違いのないように利用者の名前と服用時間を印字してもらっています。薬を渡す時は、利用者の名前と服用時間を読み上げて確認しています。薬の用法・用量については、説明書をいつでも確認できるようにしています。気になることがあれば、すぐに薬剤師に確認しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除が得意な利用者には、スタッフと一緒に掃除をしてもらっています。窓ふきや、床のモップ掛けをお願いしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、ドライブや買い物に行くことが難しかったです。近隣の散歩、安全を確認した上で半日程度自宅へ帰る、定期受診に出掛ける等、出来る範囲で外出支援を行いました。	コロナ禍により外出は難しい状況にあり、ホーム周辺の散歩や感染症予防対策を講じた上で、近所の店に買物に出かけたり美容院を利用したりしている。可能な範囲で少しでも利用者の希望に沿えるよう外出支援に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が園で管理しています。必要な時に使えるよう援助しています。 自分で管理できる方は、本人に任せ、その状態を維持できるよう支援しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年も家族が面会に来られない状況が続きました。園での様子を写真で送る機会を多くしました。タブレット端末も購入し、家族とのやり取りに活用したいと考えています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・ホール・脱衣場に温湿度計を設置し、快適な状態を確認しています。 ホールには果物や野菜、花を飾って季節感を採り入れています。 玄関・廊下にベンチや椅子を置いて自由に休めるようにしています。ホールは、利用者の動線を考えて家具を設置しています。	ホールの至る所にソファが設置されていて、一人ひとりがゆったり過ごせるスペースが確保されているほか、ホール内を安全に移動ができるよう動線に配慮し家具が置かれている。また、快適な環境の中で生活が送れるよう温湿度計を設置し、室温等の管理を行っている。ホール内には季節感を感じてもらえるよう、花、果物等を飾り楽しんでもらっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを多めに設置しています。気の合った利用者同士で座って会話を楽しんだり、昼寝をしたり、それぞれ好きなように過ごしています。 疲れた時休めるように、廊下や玄関に椅子を置いています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室での動線を考え、家具の配置を工夫しているので、安全に居室を移動できます。一人ひとりの生活に合わせて、過ごしやすい居室になるようにしています。各居室に、ソファを設置しています。テレビを置いている方も多く、居室でゆっくり過ごせるようにしています。	部屋でゆったりと過ごしてもらえるよう、ソファが設置されているほか、安全に過ごしてもらえるよう、動線に配慮してベッドや家具などが置かれていて、テレビを設置している利用者も多い。室内には家族の写真などが飾られている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からなくなる方のために、居室の入り口には、目印になる物を付けています。トイレは、男女間でのトラブルを防止するため、男女別にしました。		